

## 「渡嘉敷村産業の今後を考える」ワークショップ 参加者による「渡嘉敷村の強みと弱み」まとめ

## ■Aチーム

<強み>	<弱み>
人	天気で船が止まる
最強のおじい・おばあが多い(パラソルおばあよかったのにな・・・)	物価が高い
わらびんちゃー(子どもたち)が元気	魚などが安定して採れない
人も温かい	
人が面白い、仲よし	
食	
タナゲー(テナガエビ)	
猪肉	
ターンムウ(田芋)	
おいしい水	
川のシジミ	
山のシークワサー	
畑のトマト	
新鮮な魚が採れる、食べられる	
動植物	
リュウキュウヤマガメ	
アーマン(やどかり)	
大鰻がいる	
川のスッポン	
ヤシガニ	
紫のやどかりがいる	
ねこがいっぱいいる	
山桃狩り、野いちご狩りができる	
海岸のアダンの実	
スキとハイビスカスのコラボ、ヤシの木と琉球松のコラボ	
ハインズ(ヒッチェーシ)	
環境	
まぶたに焼き付く贅沢な時間を自分のためにゆっくり使える	
きれいな海(さんごの聖地)	
太陽が昇るところから夕日が沈むところまでみえる	
夕陽・星空がキレイ	
満天の星空(天の川と流れ星)	
田園風景がある	
年2回の稲刈	
山・村の道、野の草花	
スポット	
自然洞窟(トゥールングワ)を通り展望台に上るコースを「恋が叶う道」に	
グスク島が渡嘉敷を守っている(島の入口にあり、太陽が昇る)	
白岩の広場(ヒナクシ)	
自然林道	
ピロー(ケルバ)林がある	
朝日・夕日スポットがある	
ふたご墓がある	
展望台がたくさんあり景色がきれい(叫べるよ～)	
ひまわり畑やコスモス畑が欲しい	
冬に温泉・足湯が欲しい	

## ■Bチーム

<強み>	<弱み>
文化	環境
参加可能な祭りや行事 ex.綱引き	海山に危険生物がいる
ガジュマル・キジムナー	潮の流れが速く溺れたり死人が出る
途絶えた行事・祭事の復活	サンゴを壊しに来る人がいる
パワースポット	猪などによる自然破壊
動植物	ブロック塀が味気ない
サンゴ、熱帯魚	ゴミが目立つ
野生のヤギがいる(外から見ると岩に白い点のように)	葉っぱが大きい(邪魔になる)
かわいいヤモリやトカゲ類	サービス
人懐っこいネコ(逃げるネコもいるけど)	定期船便の不便さ
体験	船便の欠航
ナイトツアーが楽しい	定期便の予約が取れない
山のプログラムをもっと多く作る	入域客の目標を設定・制限する
山(自然)がある	食事が食べられない時がある(営業時間の関係で)
太鼓や踊りの体験(指導が可能な体制)	歴史資料館のクジラはさみしろう
渡嘉敷島のカラー(色)を決める(例えば建物とか)	娯楽がない
ふれあい牧場が欲しい	渡嘉敷産のお土産が少ない
程よいウォーキングのコース	沖縄方言を使える人が少なくなっている
面白い地層(ジオパーク)	国立公園のビジターセンターが阿波連にないのは不便
平和を考えるきっかけがある	国立公園のルールが不透明で統一されていない
日の出、日の入をじっくり見ることのできる展望台	コミュニティ
交流の家の双眼鏡はとってもよい	村が一つの方向に向いていない
環境	村のSNSが弱く思う
透明度の高い海	求人情報を一括して公募できるサイトなり案内所なりが必要
美しい海(ブルーと砂浜の白)	不動産業が無く移住できない
満天の星空	若者が少ない(魅力のある職業・企業がない)
人のすくなさ	ワークショップや村の今後に興味のない村人
700人の人口(村民の顔が見える)	
子供たちの遊ぶ姿(昭和がある)幼稚園児から中学生が一緒に育つ	
平日毎朝6:30~の子供たちのラジオ体操	
散策に良い路地	
集落の石垣	
船の時間が決まっているからこそそのんびり時間	
空港から近い離島	
大都市(那覇)からたったの35分	
那覇から一番近い離島なのに自然がいっぱいある	
空地为有効活用する	
空き田んぼに季節の花を植える	
食	
おいしい魚(マグロ刺身などの)	
手作り感あるマグロジャーキー	
猪はうまい	
けっこう飲み屋がある	
昔食材を復活させる(アーサとか)	

## ■Cチーム

<強み>	<弱み>
環境	環境
とかしくビーチの美しい夕焼け	ハブがいる
ビーチにお宝が落ちている	ハブが怖くて山中に入ることができない
世界でも有数の高い透明度の海	サービス
沖縄本島ではすでに失われた海岸が残っている	環境保全の取組やルールが十分でない
手つかずの自然が残っている	利用するにあたってのルールが未整備
夏の早朝のビーチの気持ち良さは最高	安全面がないがしろにされている(人だけでなく環境に対しても)
日によって様々な景観がみられる(海、空、雲、など)	後手に回っている受入体制が弱いのに人が増えている
慶良間の美しい島並を一望できるポイントがいくつもある	船の運航状況に予定が大きく左右される
晴れた夜の星空が美しい	島内公共交通機関が不便
希少な動植物が生息している	ハイシーズンとはとにかく船が混んでいる
渡り鳥が来る	ビーチ近くにATMがない
渡り蝶が来る	飲食店が急に休みになったり貸切になったりする
2月に咲くサクラ	高い料理を楽しめる店がない
自然との距離が近い	夜間楽しめるメニューが少ない
地形的な特性から、人がほとんど行かない場所が多く残っている	特産品が少ない
いい感じの田舎(ゴチャゴチャしていないシンプルな観光地)	安売りをしている(レンタルが主になると地域の力が育たない)
沖縄なのに水田がある	急に必要になっても手に入らないものがある
不便だからこそその離島の良さ	コミュニティ
迷子になりようがない	一次産業があまりさかんでなはない
ゆったりしている	急病になると大変
集落内には今も戦前の石垣などが多く残る	
国立の施設がある	
空港からのアクセスがいい	
那覇から最速35分で着く。フェリーでも70分	
那覇からわずかな距離にありながら田舎の景色・雰囲気がある	
人	
話好きな人が多い	
お年寄りが元気	
食	
新鮮なマグロが美味しい	
体験	
透明度が高いのでサイトフィッシングができる	
閑散期は本当は島をゆっくり遊ぶチャンス。ショップの人もゆっくり対応	
参加型の行事がある	
子ネコや子ヤギが身近で見られる、ふれ合える	